

## 環境負荷が低く、業務効率が高いオフィスを目指し、ワークスタイルの革新を進めています。

### ■考え方

リコーグループでは、非生産事業所でも、生産事業所と同様の考え方でPDCAサイクルによる省エネ活動や排出物の削減活動を推進しています。空調設備や照明、ごみの廃棄など、オフィスのどの部分の環境負荷が高いかを定量的に把握し、効果の高い施策を計画的に展開しています。リコーグループでは、文書管理の仕方や電話やPCの使い方など、社員の働き方やワークフローの見直しに踏み込んだ改善施策を展開し、より環境負荷が低く、業務効率の高いオフィスづくりを進めています。今後も、ワークスタイルの革新により、オフィスの環境経営を追求していきます。

### ■2010年度までの目標

◎非生産活動にともなうCO<sub>2</sub>排出量を2006年度実績以下に抑制(リコーおよび国内非生産会社)

### ■2010年度のレビュー

オフィスでのCO<sub>2</sub>削減活動は、2006年度比10.3%削減となり目標を達成しました。働き方やワークフローの見直しに踏み込んだ改善活動の効果が出ました。特にガソリンの使用

量削減による効果が寄与しています。販売会社では働き方の見直しなどにより車両総台数の削減が進み、低公害車台数比率は64.6%まで向上しています。全員参加型の活動(一斉退社など)も、効果を継続しています。また、自らのオフィスでリコー製品の省エネ性能活用(省エネモード設定見直し)を推進する活動を継続展開し、環境負荷削減効果を上げるとともに、お客様に積極的に活用をお勧めし、利用の拡大を進めています。さらに、カタログ・マ

ニユアル印刷のPOD化を進め、コストと環境負荷の削減に一定の成果を上げています。

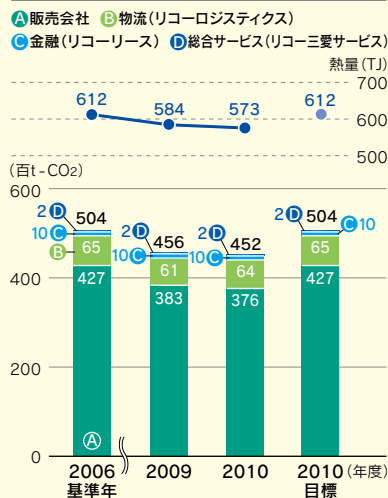
### ■今後の取り組み

業務での改善を中心としたCO<sub>2</sub>削減活動を中心に進めていきます。また、この社内活動を、ノウハウとして保有・蓄積するとともに、オフィスソリューション事業のノウハウとして活用し、お客様へご提案できる省エネ事例につなげていきます。

### 《日本》

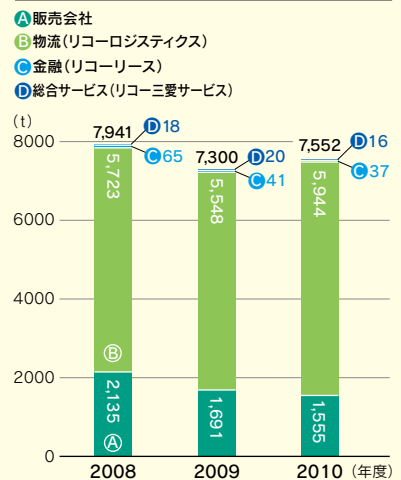
#### エネルギー使用量(CO<sub>2</sub>換算・熱量)

##### ①リコーグループ(非生産)



#### 排出物総発生量

##### ②リコーグループ(非生産)



### 間引き照明によるスーパーフレッシュアップデー実施

#### 《リコー／日本》

リコーでは、社員の長時間残業防止や心身のリフレッシュ、および事業所の環境負荷削減の目的で、毎週2日間を「スーパーフレッシュアップデー」とし、18:30までの社員の退社とオフィスの消灯を実施しています。活動の徹底を目的に、最終退社時刻の15分前にオフィスの半分の照明が自動的に間引き消灯され、15分後に全消灯となる施策を行っています。このため、作業が残っている社員はデスク上の照明を手動でつける必要

があり、使われていない照明を確実に消灯でき、省エネにつながります。1,939名の社員が働くリコー本社事業所でのこの施策のCO<sub>2</sub>削減効果は、スーパーフレッシュアップデー1日あたり平均約0.127トン、年間約11.9トンでした。なお2011年5月26日に、リコー本社事業所が入居する「銀座三井ビルディング」は、東京都環境確保条例「優良特定地球温暖化対策事業所」のトップレベル事業所として、東京都から認定を受けました。

## TOPIC

## カタログ、マニュアル印刷のPOD化

カラープロダクションプリンター導入で、印刷のPOD化を進め、コスト、環境負荷ともに大きな削減成果が上がっています。

## 《リコークリエイティブサービスPODセンター／日本》

リコー製品のマニュアル・カタログ印刷を管理するリコークリエイティブサービス (RCS) では、オフセット印刷からPOD印刷\*1への切り替えによるコストおよび環境負荷削減活動に取り組んでいます。RCSのPODセンターは、平和島を核に御殿場、海老名など5拠点のネットワークでリコー製品や企業広報に関する印刷物の制作・印刷管理業務を行っています。2008年、リコーはプロダクションプリンター事業に参入し、高品質のカラープロダクションプリンター「RICOH Pro C900シリーズ」を開発しましたが、PODセンターでは、このマシンを導入し、PODによる印刷内製化を進めてきました。リコーでは、近年、画像製品のラインナップを拡充し、製品モデルチェンジのペースも短期化し、多品種少量生産に移行してきました。このような状況を受け、カタログやマニュアル制作のリードタイム短縮が求められ、さらに、機種が増える一方で機種ごとのカタログ・マニュアルの印刷数量が減ったため、多品種少部数印刷のニーズが高まっていました。従来のオフセット印刷は、大量に刷ることでコストメリットが大きくなる印刷方法であり、多品種を少部数印刷するには適しません。さらに、段取り替えや調整などによる印刷リードタイムが長いので、各地からのカタログ請求に応えるには一定量の在庫を抱える必要があり、在庫保管による管理コストがかさむうえ、最終的に不要になった在庫を廃棄せざるを得ないという問題もありました。それに対し、「RICOH Pro C900シリーズ」によるPODは、調整が不要で少部数印刷に適しており、オフセット印刷に比べてリードタイムが大幅に短縮できるため在庫を持つ必要もありません。そこで、約1300点に上るカタログ・マニュアル等を対象にPOD化による損益分岐を調査したところ、年間10,000部以上印刷するもの、ページ数が25ページを超えるものについてはオフセット印刷、それ以外のものについてはPOD印刷によるメリットが大きいと判断し、さらに詳細な品質評価等を行ったうえで、178点のカタ



平和島のPODセンター

ログのPOD化を進めました。その結果、製版・印刷費、保管費、廃棄物処理費などのコスト1,400万円の削減が可能になりました。また、POD化を進める過程で重要だったことは、POD印刷に合わせたデータ制作を行うことにより、印刷物の仕上がり品質を向上させることです。PODセンターではデータ制作ガイドライン、マニュアル等を整備し、グループ会社の関係部署に周知、運用を行いました。さらに現在では、「RICOH Pro C900シリーズ」の特長であるバリエブル印刷機能\*2を活用し、ダイレクトメールや研修・セミナー教材などにもPOD化を広げ、販促、教育効果の向上を図っています。またRCSでは、コスト、リードタイム、環境負荷を抑えながら、効率化、販促効果の向上を実現するPOD事業をリコーグループ以外のお客様にも広く提供していきます。

\*1 プリントオンデマンド印刷。業務用プリンターを活用した印刷で多品種少部数に適している。

\*2 テキスト、画像の内容の一部を1枚ごとに変えて印刷する機能。顧客の志向に合わせた情報提供やPRを行うことで高い販促効果が期待できる。

※ RICOH Pro C900/C900S [http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/pro\\_c/900\\_900s/](http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/pro_c/900_900s/)

## バリエブル印刷の例

宛先や  
情報・背景画像  
を差し替え

文字をイメージで  
入れることも可能  
(イメージバリエブル)

